



あったかい心が伝わる 手すきのハガキ、カードです

つどいの家特製の手すきのハガキ、メッセージカード(封筒付き)、名刺の台紙はいかがですか。一枚一枚丁寧に作った、あったかい心が伝わるカードです。石ころりん画びょう・磁石もあります。県庁地下の売店や大町の文具店金圓で売ってます。問い合わせはつどいの家まで。☎(828)4472



「つどいの家」の作業のひとつ。この日は秋田養護学校の生徒も実習や見学に来て、にぎやかな作業場になりました



小規模作業所は 地域生活の応援団

秋田市心身障害者
小規模作業所協議会会長

高山泰次さん(勝平養護学校教諭)

市内の養護学校高等部からの卒業生は、秋田、勝平、栗田、秋大附属の4校合わせて毎年60人ぐらいいます。今年の春の進路は、県全体で約30%が一般事業所への就労、20%が通所・入所の社会福祉施設、25%が小規模作業所、20%が在宅、5%が進学という状況でした。

つどいの家のような小規模作業所は、働く場として、なくてはならない存在です。どんな障害の子でも毎日通えて働く場がなくては、社会参加の生活が望めないからです。

小規模作業所は法定施設ではないので行政からの補助金も少なく、指導員の身分保障なども含めて、その運営はたいへん厳しいのが実情です。今年に入って、小規模作業所から法定施設移行への道が開かれましたが、すべてというわけにはいかないようですし、小規模作業所の実態にそくした支援をお願いできたらと考えています。

つどいの家のメンバーは十二人。十八歳から二十九歳の若者たちが、牛乳パックを再利用し、ハガキやメッセージカードなどを、一枚一枚、心を込めて作っています。売り上げは年に百万円ほどになるとか。作業収益はみんなのお給料になります。つどいの家の目下の悩みは、メンバーが増えて作業所が狭くなってきたこと。来年も新メンバーが入るので、いま第二作業所を検討中ですが、建設場所の確保に苦労しているそうです。

ロンドンバスから 交流と理解広げたい

県内初の精神障害者の通所授産施設「クローバー」が今年二月、飯島の国道沿いにオープンしました。ここは一定の作業能力がある精神障害者のかたが利用し、自活することができるようになる必要の訓練や指導を受け、社会参加の促進をはかる場です。障害者のために夢のある施設にしようと、真つ赤な二階建

でのロンドンバスが目印。

クローバーには三十人登録し、施設に訪れロンドンバスのラーメン店の手伝いや、ネクタイ、わらじ、アイロンプリント、七宝焼、竹細工を制作しながら、社会復帰の訓練をしています。

「ロンドンバスで食事をしたかたが、ぶらりと施設を見学していくこともあります。この施設を通じて地域の人たちとの交流や理解が深まってくれたらいいですね」と、施設長の加賀谷亨さんは話しています。

市内に住む 障害者は…



障害には、視覚・聴覚・肢体不自由などの「身体障害」、先天的または後天的原因で知的な発達が遅れる「知的障害」、心の病により生活に支障をきたす「精神障害」があります。

秋田市の障害者は、平成12年3月末現在で、身体障害が一万二二四人、知的障害が一千三二〇人、精神障害が二千四四〇人。